（様式第１号）

平成２８年度　第２回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会　会議録

日　時	平成２９年２月２３日（木）　１０：００～１２：００
場　所	北館４階　教育委員会室
出席者	委員長　中田　伊都子 副委員長　金本　ひとみ 委員　長谷川　栄子 委員　藤井　順子 委員　鬼塚　紀子 委員　成田　直美 委員　越野　睦子 委員　守上　三奈子 委員　佐々木　春美
欠席者	委員　荒谷　芳生
事務局	社会教育部長　川原　智夏 生涯学習課長　長岡　一美 生涯学習課主査　和泉　健之 生涯学習課　桂樹　良子 青少年育成課長　田中　徹 青少年育成課　上田　裕之
会議の公表	■　公　開
傍聴者数	０人

１　会議次第

(1)　開会

(2)　議題

ア　校庭開放・教室型事業について

イ　あしやキッズスクエアについて

ウ　次年度の実施について

(3)　閉会

２　提出資料

・　【資料１】校庭開放・教室型事業について

・　【資料２】あしやキッズスクエアについて

・　【資料３】次年度の取り組みについて

３　審議内容

議題まで長岡課長により進行

＜中田委員長＞
では，議題に入らせていただきます。
議題（１）校庭開放・教室型事業について，事務局より報告をお願いします。

＜事務局：桂樹＞
（配布資料:【資料１】に基づき，平成２８年度校庭開放・教室型の実施状況及び校庭開放管理人研修会・情報交換会について説明）

＜中田委員長＞
ありがとうございました。
資料１の１頁のところの，岩園小学校の集計のところで，平均参加人数が１９名で昨年度並みとおっしゃっていましたが，実施曜日に月曜日が増えても参加人数は昨年度並みだったのでしょうか。

＜事務局：桂樹＞
前回の第１回目放課後子どもプラン運営委員会の際，水曜日及び金曜日と比べて月曜日の参加人数が少ないと御報告させていただいていました。実際１年をとおしてみても，月曜日は水曜日金曜日に比べると平均参加人数が１，２名ほど少ないという結果となりました。

＜中田委員長＞
岩園小学校は来年度あしやキッズスクエアがはじまるということもあり，校庭開放の実施回数が少なくなるので，残念です。人気のあった遊びの中で，精道小学校以外はボールの一人遊びが上位にきていますよね。普段朝日ケ丘小学校の校庭開放の様子をみていると，一人で遊んでいる子が多いなと思っていて，それは朝日ケ丘小学校だけなのかと思っていましたが，どこも多いということで少し寂しいなという感想をもちました。

＜越野委員＞
打出浜小学校の１０月の校庭開放の時間が午後４時から６時までの２時間に延長されたということで，これは１０月だけなのでしょうか。

＜事務局：桂樹＞
はい。打出浜小学校では日が長い４月から８月及び３月はもともと午後４時から６時までの２時間校庭を開放し，日が短くなる１０月と１１月は，子どもたちの安全性への配慮から，午後４時から５時までの１時間開放しておりました。しかし，昨年度管理人さんから１０月はまだ外が明るいので午後６時まで子どもたちを遊ばせてあげてほしいという御意見を頂戴し，今年度から１０月も午後４時から６時の２時間に延長したということでございます。

＜越野委員＞
わかりました。

＜中田委員長＞
それでは，ほかに御質問等ないようですので，次にうつります。

＜金本副委員長＞
では，続きまして議題（２）あしやキッズスクエア事業について，事務局よりお願いします。
＜事務局：上田＞
（配布資料:【資料２】及びプロジェクターを使用し，あしやキッズスクエア事業について説明）

＜金本副委員長＞
ありがとうございました。
ここまでで何か御質問等ございませんか。

＜越野委員＞
１月の小学校委員会の意見交換の場で，来年度からキッズスクエアが開始される打出浜小学校の安全管理員さんとマネージャーさんの人数が足りていないと伺いましたが，その後どうなりましたか。

＜事務局：上田＞
そのあと増えておりまして，現在安全管理員とマネージャーの方２０名程度集まっていただいております。特にマネージャーは事務局である青少年育成課と連絡を取り合ったり，緊急時には救急車を呼んだりするなど判断を迫られる場合が責任のある立場なので，マネージャーの方を一定数確保することがキッズスクエアの運営上非常に重要となります。その点今回打出浜小学校では地域にお住まいでボランティア経験を長くされておられた方

を数名確保することができました。 また，今年度はほかの実施校に関しましても，現在５名ほど，芦屋市の小学校での教員を経験者や芦屋市在住の教員経験者がいらっしゃいまして，浜風小学校と宮川小学校でスタッフとして御協力いただいております。そういった方に，来年度打出浜小学校や岩園小学校のスタッフとしても御協力をお願いできないかとも考えております。また，新しく教員ＯＢの方などにもお声掛けさせていただいて，きちんとした体制に整えていきたいと考えています。これは，子どもたちの安全への配慮はもちろんですが，学校の施設をお借りしますので，教員経験者がスタッフにいらっしゃる方が学校の先生方も安心されるのではないか，また，学校の先生の仕事や気持ちを理解した上での運営ができるというなどの学校側への配慮もございます。

＜中田委員長＞
打出浜小学校については，シルバー人材センターには委託はされないということですね。

＜事務局：上田＞
はい。打出浜小学校に関してはその予定はございません。

＜長谷川委員＞
御説明いただいたとおり，異学年の子どもたちが一緒に遊べるという点はとても良いなと，どの小学校からも大変好評です。学校の方で心配していた，ケガ人が出た時の処置がやはり学校に多々任されましたので，応急手当に関する研修をしていただいたという点は，非常に改善されているかなと思います。
また，要望としては，毎日というわけではないのですが，障がいのあるお子さんも参加したいとの希望があります。保護者の方が用事のあるときに一時的にほかの子どもたちも遊べたらいいなという方がいらっしゃるので，特別なことはしませんということではなく，階段の上り下りのときに手を添えていただくというようなことは，どなたでもできることなので，初めから断ってしまうのではなく，どのような過ごし方をされますかとか，どういったことが御希望でしょうかなど，合理的配慮につながるようなお声掛けをしていただけたら参加しやすいのではないかなと思います。その点を改善していただけたら有難いなと思います。

＜事務局：上田＞
いま長谷川校長先生から貴重な御意見をいただきましたが，今までも身体に障がいのある児童の方や発達の面で保護者が心配されている方の参加があります。私たちは，配慮を要する児童だから参加できませんという御説明ではなくて，この事業というのは放課後の居場所づくりですので，校内・校庭で児童が一人で活動ができるという状況であればキッズスクエアに参加いただいても大丈夫ですよという御説明をさせていただいております。

学校の先生でしたらいろいろと御経験がおありなので，サポートをする方がいらっしゃらなくても担任の先生が一人で対応することは可能なことが多いと思うのですが，キッズスクエアの場合，今現在は大変申し訳ないのですが，特定の児童をサポートしながら居場所つくりの全ての児童の安全な見守りを行うことは，難しい状況かと思われます。これまでも配慮を要する児童をおもちの保護者の方からお電話を頂いたり，直接窓口に来られる方もいらっしゃいましたが，今皆様にお話しているように，一人でキッズスクエアの活動が行なえるという状況でしたら，問題なく御参加いただけますし，長谷川校長先生のお話にありましたように，スタッフが手をそえる必要があるというようなことは，今のキッズスクエアにおいては難しいというお話をさせていただいております。ただ，配慮を要する児童の方が放課後，健常児のお子さんと一緒に遊ぶというのは非常に重要なことだと思いますので，例えばファミリーサポートなどのサービスを御利用いただきながら参加いただいたり，保護者の方と一緒に御参加いただいたりすることで，今後どうしていくかということを保護者の方に考えていただいたり，御相談については応じさせていただきたいと考えております。この件に関しましては長谷川先生以外の先生からもお聞きしておりますが，キッズスクエアはお預かり型の事業ではございませんし，市としても初めての試みでございますので，すべての方に優しいというわけではないかもしれませんが，現在は今のままの運営を行わせて頂き，今後どのようなことが可能なのかを考え，判断することも含め，少しお時間を頂きたいと思います。

ケガの対応についても，今年度スタッフに向けておこなった消防署の応急手当研修で十分と考えているわけではありません。消防については大きなケガが中心となりますので，来年度は学校教育課と相談の上，細かいケガへの対応について学校の保健室の先生から学ぶ機会を設けたいと考えております。配慮を要するお子さんのこともあるのですが，まずは通常の運営，見守りのスキルの強化をさせていただきたいと考えております。その強化の中で，配慮を要するお子さんに対する対応についてもできるかできないかなどの可能性を探っていきたいと考えております。

＜金本副委員長＞

ありがとうございました。ほかに何かございませんか。実は，お母さん方の声を集めてきたのですが，よろしいでしょうか。原則下校の見守りについては校門までで，そこからは保護者の方が見なければならないということは理解しているのですが，一人で帰っている子を時々見かけるので気になりましたという声がありました。ほかの意見として，子どもたちや親の横の繋がりがないような気がするので，情報をもっと広めていってほしいというお話がありました。キッズスクエアすごく良いよという口コミが広がれば，もっと入る子が増えるのになと思います。また，気になる子ほど参加してくれないので，気になる子に参加してもらうために，役所まで申込みに来なければならない今のかたちを少し変えて，何かの行事のときに申込めるようにしてほしいという声が多かったです。

＜事務局：上田＞
来年度のお知らせについては，現在ちょうど準備中でございますが，来年度４月３日から利用される方については，３月１日から１０日の間にお申込みいただきます。昨年度は青少年育成課が体育館の中にあって，施設内が工事で入ることが出来ませんでしたので，応急処置として各校のキッズスクエア申込書を入れるポストを設置させていただきました。これはあくまで工事のための代替処置でしたので，今回は同じことはできませんが，特別に３月１日から１０日，山手小学校は3月３日の１日のみなのですが，安全管理員を１人増員して申込み対応をさせていただくというかたちをとります。ただ，常にお申込みできるかたちにしてしまうと，スタッフが３名と限られているために本来の見守りがおろそかになってしまう可能性がございます。それともう一つ，キッズスクエアに申請書を持って行って申込みできるということを保護者の方が拡大解釈されて，学校の先生に申請書をお渡ししたらキッズスクエアの申込みができると勘違いされることを避けたいという点がございます。こういった理由から，学校で受付はしないというルールはこのまま継続していきたいと考えております。ただ，今回の受付に関しましては，広くお知らせはしていませんが，青少年育成課の窓口に直接申請に来ていただく方法，郵送で申請書をお送り頂く方法，役所の通用門のところの郵便受けに封書で入れて頂く方法を設けていますので，芦屋市民であれば２４時間いつでも申込みが可能な状態にはしております。ただ，登録料の５００円の振り込みについては，その手間をかけていただくことで，保護者の方にキッズスクエア参加についてしっかりと認識をして頂き，また，保護者の承諾の観点からも自覚をもっていただきたいという考えがございますので，この点も今までどおり継続していきたいと考えております。

＜金本副委員長＞
ありがとうございました。最後にもう一つ，校門が開けっ放しの学校があったり，校門が閉まっているときに乗り越えて帰ったりする子がいるそうなので，そのあたりを学校ともう少し話し合っていただきたいです。

＜事務局：上田＞
実は，校門を午後５時に閉めるのは学校ではありません。

＜金本副委員長＞
どの門を開けるというのは学校ごとに決められていないのでしょうか。

＜事務局：上田＞
基本的に自動車が動線になっている門は子どもは使いませんが，学校によってさまざま

だと思います。

＜金本副委員長＞
最後は学校の先生が閉めますよね？

＜事務局：上田＞
最終的に教頭先生が閉められますが，コミスクが使うときは校門は開いていると思いますので，最終的にはそれぞれの最後に使用された担当の方が閉められているのではないでしょうか。

＜金本副委員長＞
わかりました。校門を乗り越えている子がいたときは注意してほしいというお声でした。

＜事務局：上田＞
わかりました。

＜中田委員長＞
先ほどの長谷川先生のお話で，介助するようなことはできない，スタッフの手が足りないとおっしゃっていましたが，これは体制に口を挟むようで申し訳ないのですが，安全管理員さんは常に二人というのは決まっていますよね。宮川は６０名や７０名来るときもあると思うのですが，マネージャー１人と安全管理員２人の３人体制なのでしょうか。

＜事務局：上田＞
実は，今年度は増員しております。私たちの統計上，宮川は水曜日の利用が圧倒的に多く，多い時は９０名に達することがありますので，現在暫定的に宮川の水曜日に関しては安全管理員を３名配置しています。

＜中田委員長＞
長谷川先生がおっしゃったとおり，介助が必要な子が明日来たいなというお話があれば，事前に一人その子の為に安全管理員をつけてあげるのは無理なのかなと思いまして。その子にずっとべったりというわけではなく，階段の上り下りのときだけちょっと見てあげる必要があるだけで，あとはみんなで遊べるような子だと思うんです。だから，そういう子も一緒にみんなと遊びたいけど，そういう階段の上り下りでみんなが先に行ってしまうようなときだけ見てあげるような人を一人専属でつけるということはできないでしょうか。人件費の問題があるとは思ったのですが，たくさん参加者がいる学校に増員ができるのであれば，そういった対応もして頂けたら嬉しいなと思います。またお金の話で申し訳ない

のですが，人件費がかかるということであれば，これまでキッズスクエアのためにたくさんのおもちゃや備品を揃えていただいているのですが，あれば使うと思うのですけれども，こんなにたくさん無くてもいいんじゃないかなという声をお聞きしたことがありますし，参加人数が多い小学校であればたくさんいるかもしれませんが，浜風や朝日ケ丘は人数が少ないので，全校均一に配らなくてもいいのではないかと思います。そのあたりを人件費にまわしてもらうことはできないのかなと思います。来年度からおもちゃをそんなに追加しなくてすむのであれば，その分を人件費にまわしていろんな子どもたちに使ってもらえたら嬉しいかなと思いました。

＜事務局：上田＞
物品に関しては，使う人数が違うので，たとえば宮川小学校と山手小学校は人数が多いので２つ買って，朝日ケ丘小学校はその半分という風には，はじめはできません。そこについては今後精査させて頂く予定です。大きいものに関しては分けようがないですが，小さいものについては，例えばなわとびを買うときも，宮川小学校は１０本，朝日ケ丘小学校は３本など人数の実情に合わせてさせて頂いています。物については一回買ったら終わるのですが，人に関しては私たちも考える余地を設けているつもりですけれども，恒久的にかかってしまうお金ですので，やはりそこについては負担することができるかというところは，来年度から打出浜小学校と岩園小学校が開始しますので，全校８校揃ったうえで，今後今までの状態のままでさせて頂くのか，先ほど長谷川先生や中田委員長からお話があったように，何かこちらの方で手だてが打てるのか，もしくは何か民間などのサービスを併用したかたちで利用して頂けるかという，そこについては８校揃った上での運営状況を見させていただいてから，今後判断していくかたちをとらせて頂こうと考えております。また，追加ですが，人については個人懇談のときも一人増やしています。個人懇談，学級懇談等で人が増える場合についても安全管理人をどの学校についても３名に増やして対応をしています。

＜佐々木委員＞
私は昨年度から関わらせていただいていますが，だんだん実施校が増えてきましたよね。来年から全校実施になるということで，恐らく今は運営やルールの周知と確立の徹底という事で考えられてやっていらっしゃったのではないかなと思います。なので，一応のルールが皆様に周知されて，それがそれぞれの中で確立していくというのが目的ではないのかなと思うのですが，その中で，遊び道具を学校ごとにまわしながらみんなが広げて子どもたちが楽しめるようなシステムを作っていこうとされているのはすごいなと思っていました。年度年度増えるにあたって，芦屋市全体として遊具などがもっとあればもっと遊べる可能性というのが増えるわけですから，それは進めていただきたいなと思うのと同時に，委員長がおっしゃったことを含めてですけれども，お互いが感じておられることなどを出

せる場が学校毎にあるのかということが非常に重要になってくると思いますので，連絡会みたいなものをつくって定例化していくこともこれからしていってはどうかなと思います。また，障がいがあるお子さんについて，先ほど校長先生からもありましたが，いろいろな障がいがありますよね。先ほどのお話では肢体不自由の子どものことを皆様思い浮かべながら話されていると思いますが，いわゆる障がいについては，明らかに障がいがわかる肢体不自由の子どもたちもいますが、それ以外の子どもも多数います。肢体不自由の子ども，それから情緒的にコミュケーションがとれない子どもたちについて，今はそういう対応しかできないかもしれませんが，これだけ全学校で広がれば，それぞれの学校の事情があると思います。それについては，これから対応できるようなシステムや研修も必要になると思います。今は救命救急の研修を始めたというところですが，例えばコミュニケーションが難しい子どもたちには，どういう風に接していけば良いか，それはマネージャーの方や先生たちにはすごく大事なことではないかと思います。様々な個性のある子どもたちに対する，すべては無理かもしれませんが，ここについてはできるようになるというようになればなと思いますので，よろしくお願いいたします。

＜事務局：上田＞

第一点の連絡会については，こちらの説明不足ではございましたが，資料のとおり，運営会議を学期に１回程度，教頭先生と地域の方，ＰＴＡの会長や副会長，現場で仕事をしているマネージャー等や青少年育成課上田とで開催しています。学校に場所でのご協力を頂き，児童が参加する上で御迷惑をおかけしていることもありますので，教員の間でこういったことで困っているというようなことも教えていただきますし，地域の人からみてこういう風に見えていますというような建設的な御意見をたくさん頂いております。そういうことについては今後も学期に１回程度お時間を頂きますけれども，私たちだけで進めてしまうのではなくて，ＰＴＡの方，学校の現場の方，また地域の方などいろいろな方の手を借りて，今御提言を頂きましたように，進めていきたいと考えております。

また，遊具につきましては今買っている積み木は朝日ケ丘と宮川に一つずつ置いていますが，ずっとそこに置いているつもりではなくて，６個買いましたので，例えば春休みの一週間は精道小学校に全部集めて何かすごく大きなものを皆でつくろうというような，本についても今回予算がついているので買うのですが，精道で買ったらずっと精道に置くということではなくて，一定期間が過ぎたら精道から山手に移すというような，同じ物を買わないようにしていろんなお子さんの目に触れるというように考えています。それで今は暫定的に置かせていただいていますが，いろいろ手立てをしてお子さんが活用できるようにしたいと考えています。全校で開始すれば８校揃って行事などをするときに転用もできると思いますので，そういったときに活用するために買わせていただいたという経緯がございます。また，購入したものはそれぞれのキッズスクエアだけで使うというわけではなく，遊具に関しては将来も見据えて購入しているということでございます。今後開催の可

能性のあるイベントの際に，子ども会も１個お持ちなので，同じものを購入しないと意味がありませんので，今回は購入できたものでございます。
研修について，留守家庭児童会の方では特別支援の研修等もさせていただいているので，講師については私たちも十分熟知しています。そういう講師の方に，今後，放課後の子どもの過ごし方，接し方，あるべき姿などの講習を行いたいと考えております。また，去年神戸で留守家庭児童会を経営されている方をお招きして研修をさせていただいていたみたいに，単に How to だけではなくて，マインドの部分での研修についてはまだ数は少ないですけれども，来年度はもう少し重ねてその方に再度お願いしています。もともと地域において長年ボランティアなどで活躍してくださっている方がマネージャーをして下さっているので，十分スキルはおありですけれども，キッズスクエアに合ったスキルを私たちの方で用意して，来年度は多くの研修を開催する予定です。そこでも特別支援等のことについてもお話する機会があればさせていただいて，すぐに出来るかどうか今はお返事ができませんけれども，そういうことについても，可能かどうかの可能性を探っていくことも一つあるかもしれませんし，まずは，一般的なキッズスクエアに必要なスキルを上げていきたいと思っております。

＜成田委員＞
受け入れる側から，個人的な意見ですので，スタッフの皆様がどう思われているかはまた別のお話ですけれども，正直，これまで２年近くキッズスクエアの体験をさせていただいていて，特別支援の方の問題も気にはなっていたのですが，本当にやんちゃすぎて目が離せない子も多いんですよね。ある意味そういった方の方が正直なところ大変です。ただ，それからするともちろん特別支援の方については何かあったらいけないのですごく責任は大きいとは思いますけど，私は個人的にはウェルカムと思っているんです。危ないことをしていたら注意をするように，当然そういう方に手を差し伸べるところがあれば，普通の人間のモラルとして，絶対手は差し伸べますし，その時その時で対応はできると思っています。ただ，やはり人数的に多いところもあると思うので，人を増やしたらどうかという意見に対しても，もちろんそれができるのであればその方がより良いとは思いますけれども，例えば管理人さんが一人で遊んでいる子が二人しかいなかったとしても，運動場の一番右と一番左に分かれてしまえば，どちらかをやっぱり見なければならないので，その見ていない間に当然ケガをされることもあると思うんですよね。だから，人がいるから必ずしも安全が守れるっていうものでもないという風にも思っています。先ほど謝礼金の問題もあるというようなことをおっしゃっていましたけれども，その問題を解決するのは，別に謝礼金を一人あたり安くすれば解決する問題ですので，その必要があるのであれば，私はＯＫだと思っています。

＜事務局：上田＞

今成田委員がおっしゃってくださったように，配慮を要する児童の話が出ていますが，いまひとつ大きな課題として通常に参加されているお子さんでもこちらのルールを聞いていただけないという子がいらっしゃいます。学校のルールを守ることができているお子さんについては，授業が終わった後のほっとした時間と言うことももちろん加味しますが，やはりこちらの言う事を聞いていただかないと，他のお子さんが不安に感じたりするというのもありますし，その点について私たちも力を入れていきたいと思っております。時には学校とも相談しながらと申しますのも，学校が指導していないことを私たちが言うわけにはいきませんので，学校の指導に基づいて保護者の方にも適宜お話をさせていただくということも実際していますし，今後も進めていくことがまず一番大事だと思っています。

正直なところ，兵庫県の他の放課後子ども教室で年間２２０日も開催しているところはほとんどありません。普通市町では居場所づくりを月に１回２回とか週１されているのがせいぜいのところを，毎日させていただいているうえに，居場所作り機能の他に体験プログラムも常時行うというのは，このあいだ県でも発表させていただきましたが，「そんなことを芦屋市されているのですか」と県下の各市町担当者が驚かれていました。通常の市よりもかなりキッズスクエアについてお金を使っているのが事実です。

芦屋市で今これだけ緊縮財政と言われている中で，芦屋市キッズスクエアに関しては本当にいろんな方が協力してくださって，お金がない状況下で予算を出してくださっているのが現状ですので，これ以上にプラス何かをするのでお金を出して下さいというのは，なかなか難しい部分が多いと考えています。もちろんお金がないからしないというわけではないですけれども，これ以上いろいろ予算をつけてするのは，他の事業が削減されている中でキッズスクエアははじまったばかりということで本当にいろいろな方がサポートして下さっているという状況ですので，難しいかなとは思っています。ただ，全児童が遊べる状況というのは条件つきではありますけれども，つくっていくためにどういうことができるかということについては，また今後８校がまず揃って，きちんとした運営を確認してから考えていけたらなと考えております。

＜金本副委員長＞

他何かございませんか。

＜中田委員長＞

今までの話とは違うのですが，この間聞いた話がありまして。実はその方は子どもの貧困についての委員会に出席されている方で，この中にもその会に出席されている方がいらっしゃるかどうかはわからないんですけれども，その時に子どもの貧困対策としてキッズスクエアを利用したら良いというような意見が出たらしいんです。それで，子どもをキッズスクエアに預けて働きに出たら良いんじゃないかというような話が出たというお話を聞いて，あれ？全然わかっていないんじゃないかなと。居場所づくりとしてはもちろんあ

りますけれども，そこに預けて働きに行くというのは，ちょっと違うのではないかと思いまして。ここにいる方とかその周りの人はキッズスクエアの事はわかっていますけれども，そのような大事な会で話をされているメンバーがきちんとわかっていらっしゃらないのではないかと思いましたので，もっとキッズスクエアのことをほかのところにも広められた方がいいんじゃないかと思いました。

＜事務局：上田＞

今貧困対策のお話が出ましたけれども，違う場面で貧困対策のお話をさせていただいたのは，いろいろな事情があって友達を家に呼べない環境のお子さんがたくさんいらっしゃいます。そういう方については，このキッズスクエアの遊び場所を活用して，友達を家には呼べないけれどもキッズスクエアだったら一緒に遊べるという意味では，私たち貧困対策の一端を担っているのかもしれません。ただ，キッズスクエアに関しましてはすべての児童が対象ですので，貧困対策や就労支援のためにやっているわけではないのですけれども，キッズスクエアの条件で構わないという方については，もちろん働きながらキッズスクエアを利用することは問題ありません。ただ，そのさじ加減が非常に難しいです。今日も窓口にキッズスクエアにしようか留守家庭児童会にしようか迷われている方がいらっしゃいましたが，具体例を挙げながら違いを御説明させていただきました。ただ，キッズスクエアに行かせて働く時間を増やそうというのは少し観点が違うかもしれませんので，職員にも市民の方にもお伝えする手段を増やして，キッズスクエアについて御理解いただけるよう努力する必要はあると思います。

＜越野委員＞

この放課後子どもプランのキッズスクエアというのは，すべての子どもが平等に放課後遊べるように，という事業で進められているということなんですけれども，やはり申込み手続きがある以上は子どもの自由な意思ではなく，親の都合が出てきてしまうのではないかなと思います。一定の安心や安全を確保したり，保護者に責任をもってもらうために登録申請があったりというのはわかります。ただ，子どもの中にはネグレクトではないですけれども，保護者の方がすごく忙しくてほったらかし状態になっていて，本当に居場所が必要な子もいると思うんですけれども，そういうお子さんの保護者の方は申込みに行かれないと思うんですよね。そうすると，本当に必要な子どもの居場所づくりになっているのかな，すべての子どもたちのためになっているのかな，と思いますので，その点を考えていただきたいです。

＜事務局：上田＞

その点に関しましては，私たちも用意しているプリントを渡したきりになっていますので，今後すぐには難しいですけれども，まずは８校揃った時点においてキッズスクエアで

何ができるのか，例えば学校と御相談させていただいて，この子はキッズスクエアに入ってもらった方がいいという方がいらっしゃって，もし保護者の方が今の登録制度だと申込みをするのが難しいという情報をいただけるのであれば，その方には私たちから別途御連絡差し上げる等，今の状況では難しいですけれども，人員が増えたり，こちらの体制が整ったりしましたらそういうことについても対応できますし，今例えば出来ていないのは，貧困とは少し離れてしまうかもしれませんが，実はキッズスクエアは芦屋市民のすべての子が対象となります。ですので，芦屋市在住の私学等に通われているお子さんも対象となるのですが，今お知らせ等は市内の公立小学校でしかお配りできておりません。すべての方に平等ということに関して言えば，そういう方にもきっちりと市民サービスを提供させていただくということも一方ではしていかなければいけないなと考えております。

＜藤井委員＞
私は安全管理人にならないかと誘われていたのですが，ただ，今のお話を聞いているとお引き受けしなくて良かったなと思っております。そう思うくらい，要するに最初は見守るだけでいいという風に聞いておりましたが，いろいろなお子さんに対応するためにはある程度の知識を身に付けていなければいけないのではないかという気がしてきつつあるんです。例えば，学校の先生を退職されてお家にいらっしゃる方も知り合いの方にたくさんいらっしゃるので，そういう方々にも安全管理人やマネージャーとして声をかけるようなシステムがあれば良いのになと思いました。

＜事務局：上田＞
ぜひ，それは御協力頂きたいです。私たちも常にその点につきましては内々ではありますが，いろいろな方にも御協力いただいて人材を逃さないようにフォローはさせていただいています。ただ，以前辞められた方についてはなかなか私たちもどこまでというところがありましたので，是非，今日この後でも早速教えて頂いて，そういう方にも御協力頂けるようであれば是非協力頂きたいと思っています。ただ，保護者の方にはこの条件で入って下さいね，細かい配慮はできませんよという形で，出来ませんよということは私は言い続けています。ただ，実際問題子どもたちと接するうえでそれではまかり通らない事はたくさんあります。例えば，午後２時半にキッズスクエアに来ても，４時まではキッズスクエアに登録していない子どもたちも校庭で遊ばれているケースがあります。だからと言って，あなたはキッズスクエアに登録していないからケガをしても何もしませんというわけではなくて，実際キッズスクエアのスタッフはキッズスクエアに登録していない子どもがケガをしていてもみてくださっています。私は担当として冷たいことをお話していますが，現場のスタッフは本当に献身的にいろいろなことをお子さんのことを思ってして下さっています。私が説明していることと，運営してくださっている方の実際は違うことが多々ある場合があります。何の手続もなく来るのではなく，やはりある一定の手続きをして，

保護者の方にルールをきちんと御理解いただいたうえで，参加いただかないと，保護者の方の要求はどんどん増えてしまうので，やはりそこはスタッフの方にそういうこと必要限度を超える事のサービスをすることがないように，私がプロテクションの役割を果たしていると思っていますので，その点については保護者の方にはきちんと御説明させていただいています。 実際は現場のスタッフは本当にあたたかい運営をされているのですが，それを実際保護者の方にこんなことをしていると話すことで誤解が生まれる場合があります。本当に良い運営なんです。ただ，私が保護者の方にこんなことしているんですよとスタッフが好意でして下さっている部分については言えないです。

＜藤井委員＞

そうですね。お話を聞いていると，だんだん要求が高くなってくるのだろうと思いますので，専門性を要するようなことがとても安全管理人の人ですべてをまかなうことはなかなかできないだろうなと思います。逆に，そういったものを求められたらそういう専門の方に安全管理人やマネージャーに入っていただかないと出来なくなっていくのかなと思いながら，私のように何もできないものは入っていてもお役に立たなかったのではないかと思いながら聞いていたのです。私も無責任にここに来てもいけませんので，いろいろな人に意見を聞いてきました。やはりこの事業があることによっていろんなお子さんの安全が確保されて，小学生の性犯罪なんかも減ったのではないかという話もおっしゃっていましたので，とても良い取り組みだと思うのですけれども，まだまだ周知徹底されていないのではないかと思います。私の近所でも入って学校で遊んだら良いのになという子がいても行っていないので，やはり手続などを保護者の方がしにくいのかなぁと思いましたので。そういったシステムを今までも周知をされているのでしょうけれども，私もあまり知りませんでしたので，詳しく周知できるところがあったら良いのではないかと思います。

＜事務局：上田＞

この忙しい時期にプリントを一回配るのみになっていますので，この間も実行委員会でＰＴＡの会長から御提案いただきましたのが，配るのが一回きりだと保護者の方もプリントの間に挟まっていてお読みにならないケースも考えられますので，今後の課題ですけれども，もう一回違う時期にキッズスクエアまだ募集していますよみたいなプリントを再度配らせていただくということを考えています。ただ，私たちも今その余裕があるかどうかがわからなくて，実は２年生から６年生まで６校で一種類につき５，０００枚ずつ印刷させていただいているんです。それを１人につき８枚，いま折込む作業を職員が手伝ってくれているのですが，それをまた別の時期にもう一回するというのは，人員がいるかという問題もありますので，ただ，今後の課題として，簡易なものになるかもしれませんが，前回お知らせしたようにキッズスクエアまだ募集していますというような，何か手を打って出来るだけたくさんの方に周知させていただいたうえで，キッズスクエアに入るか入らな

いかの選択肢ができるように，来年度８校が揃った時点でやっていきたいと考えております。今まではまだ実施していない小学校がありましたが，来年度からは８校すべてが揃いますので，市の広報などでもこれから大きな展開を打てるようになるのではないかなと思っています。

＜藤井委員＞
私は芦屋市自治連合会の代表としてここに来ておりますので，自治連の会長さんたちにもこういうことが取り組みとしてあるということをお知らせしたいと思います。そうしたら地域で見守ってらっしゃる自治会長さんたちが、気になることがあれば伝えてくれるかもわかりませんので。年配の方々というのは静かに過ごすことが良いみたいで，要するに子どもたちがにぎやかだからと保育所も出来ないというようなことにもなってきますので，やはり将来の子どもたちを育てていくという観点で，次の世代につないでいくということを考えていただく機会の何かの一助となることができればと思いますので。自治連合会は、高齢の方が自治会長をされていますので，こういうシステムがあることをお知らせできるような何か広報やチラシなどを自治連に下さると助かります。

＜事務局：上田＞
ありがとうございます。早速皆様にお送りしたいと思います。地域の方，特に高齢者の方しか知りえない情報，例えば夏休みに山手地区の方に震災時山手地区がどんな風になっていたかというようなことや，その地区ならではの伝統などがあるので，そういうことを自治連で御活躍されているような方にお声掛けさせていただきたいです。また体験プログラム等でそういう子どもたちに伝え継がなければならない知識などについては，お教えていただく機会を是非，ただ単に知っていただくだけではなく，御協力もいただきたいと思っていますので，今後ともよろしくお願いいたします。

＜金本副委員長＞
では，続きまして議題（３）次年度の実施について，事務局よりお願いします。

＜事務局：桂樹＞
（配布資料:【資料３】に基づき，次年度の実施について説明）

＜金本副委員長＞
ありがとうございました。
何か御質問等がございませんか。
それでは，最後に中田委員長から，閉会の御挨拶をお願いいたします。

＜中田委員長＞
　閉会